



【関東・農村RMO推進フォーラム】 2024/1/18

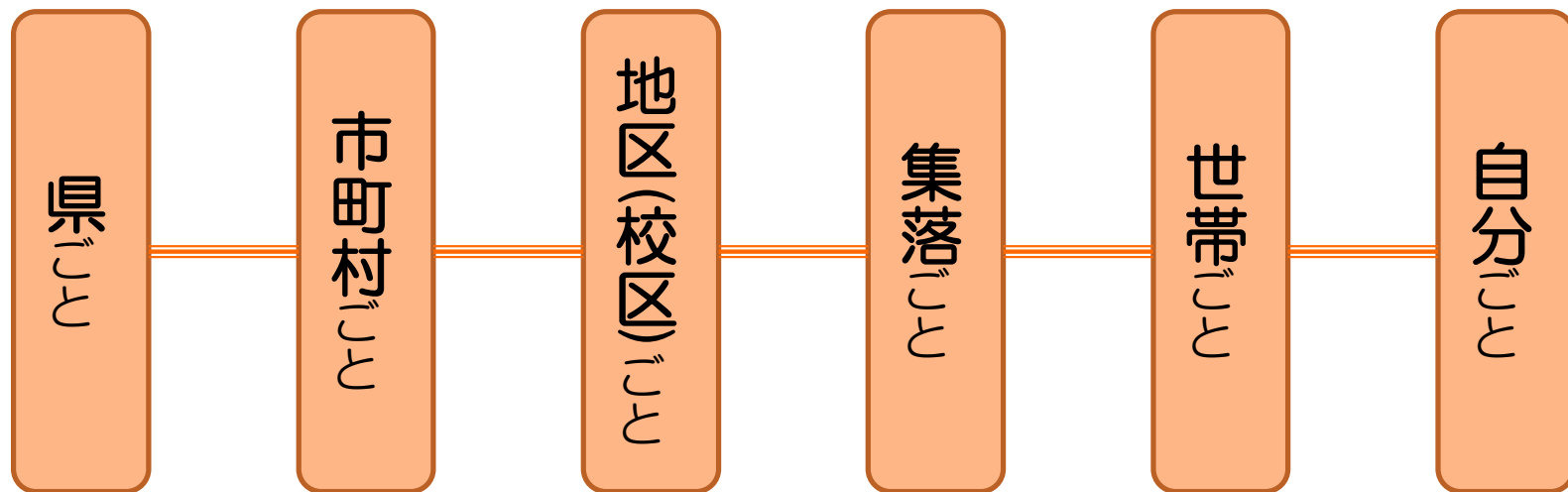
「田園回帰時代の農村再生」

1

関司直也（法政大学現代福祉学部 教授）

E-mail: zushi@hosei.ac.jp

はじめに—改めて、原点に立ち戻ってみよう。



→ “手段” 先行に陥らないように…。

…目の前の課題解決・事業枠組みに追われると本末転倒…。

* 何のために“農村RMO”に取り組むのか？

…中山間の地域づくりの目指すところは何？

* 20年を積み上げた農地維持＝“直払”をどう活かすか？

…農村に向けた“田園回帰”の風，次世代の担い手は？

むらの空間をどう描く？

農村が直面している現状<何が問題か？>

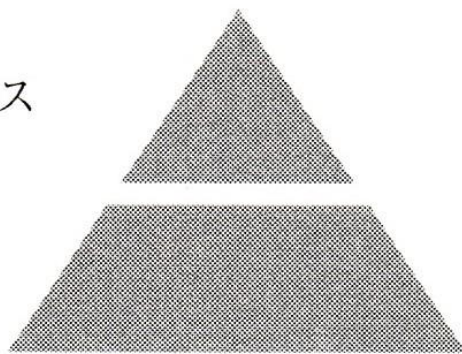
■日本の農業＝二階建て（生源寺眞一）

【上層】市場との絶えざる交渉のもとに置かれた層(ビジネスの上層)

【基層】資源調達をめぐって農村コミュニティの共同行動に深く組み込まれた層

【上層】
経済／ビジネス

【基層】
暮らし
コミュニティ

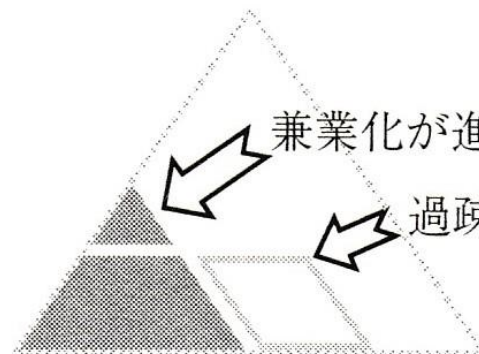


農村住民＝農家

【原形】

農村＝農業中心社会

⇒



兼業化が進み農家減少

過疎化による人口減少

農家↔非農家：混住化による分化

【現在】

「むらの農離れ」

図 8-1 農村社会の基層と上層の変化(原形～現在)

→これからの農村：【基層】と【上層】をどうつなぎ直すのか。

＝ “頭数” が減っていくことを前提に、地域社会の立て直しと
地域経済の再建の両面をどう進めれば、次世代に暮らし甲斐のある
地域をつないでいけるのか？

変化に揺らぐ農村の今

■ 土着性の強かったむら→「むらの農離れ」へ

- ・ 地域資源へのかかわりの後退, **価値の喪失**
- ・ 実は、人材はゼロではない? 様々な経験を有する多彩な人材を抱えるが、その豊富さが「**見えなくなっている**」現状

■ 農山漁村でも経済のグローバル化に直面：

＜生活単位としての地域＞

＜資本の活動単位としての地域＞

×ズレ・対立×

…住民がひとつの地域に住み続けて、生活を豊かに享受しながら世代交代をしていくことがきわめて難しくなっている時代

＜**誇りの空洞化**＞…地域に**愛着**を持ちにくい環境に

⇒ 農村の地域づくりの主眼：価値の取り戻し／人材のあぶり出し
／暮らしへの前向きな機運醸成

「小さな住民自治」を担う地域運営組織（RMO）づくり

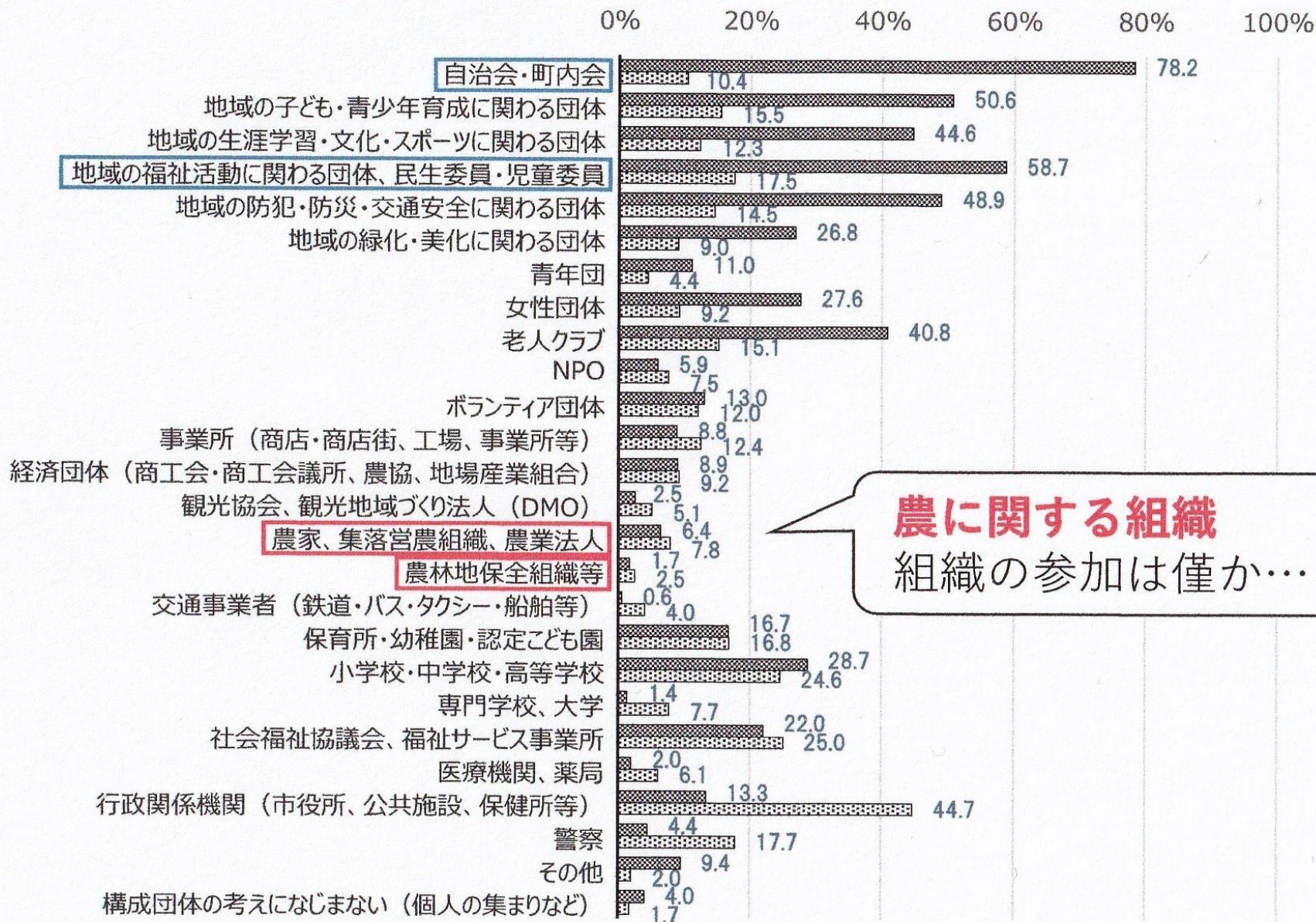
その特徴

- ① **総合性** …活動内容
- ② **二面性** …住民の自治組織と経済活動を行う経済組織
- ③ **補完性** …従来からの自治組織である集落との関係
ex. 大字, 小学校区
- ④ **革新性** …新しい形での組織運営
ex. 女性や若者など個人の関わり
- ⑤ **手作り性**
…住民が当事者意識をもって、地域の仲間と未来を切り拓く

⇒まずは、“自分ごと”を“地域ごと”につなぎ直す作業から。

▼農村RMO：複数の集落の機能を補完し、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援などの地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織。

構成団体・協力団体として参加している組織



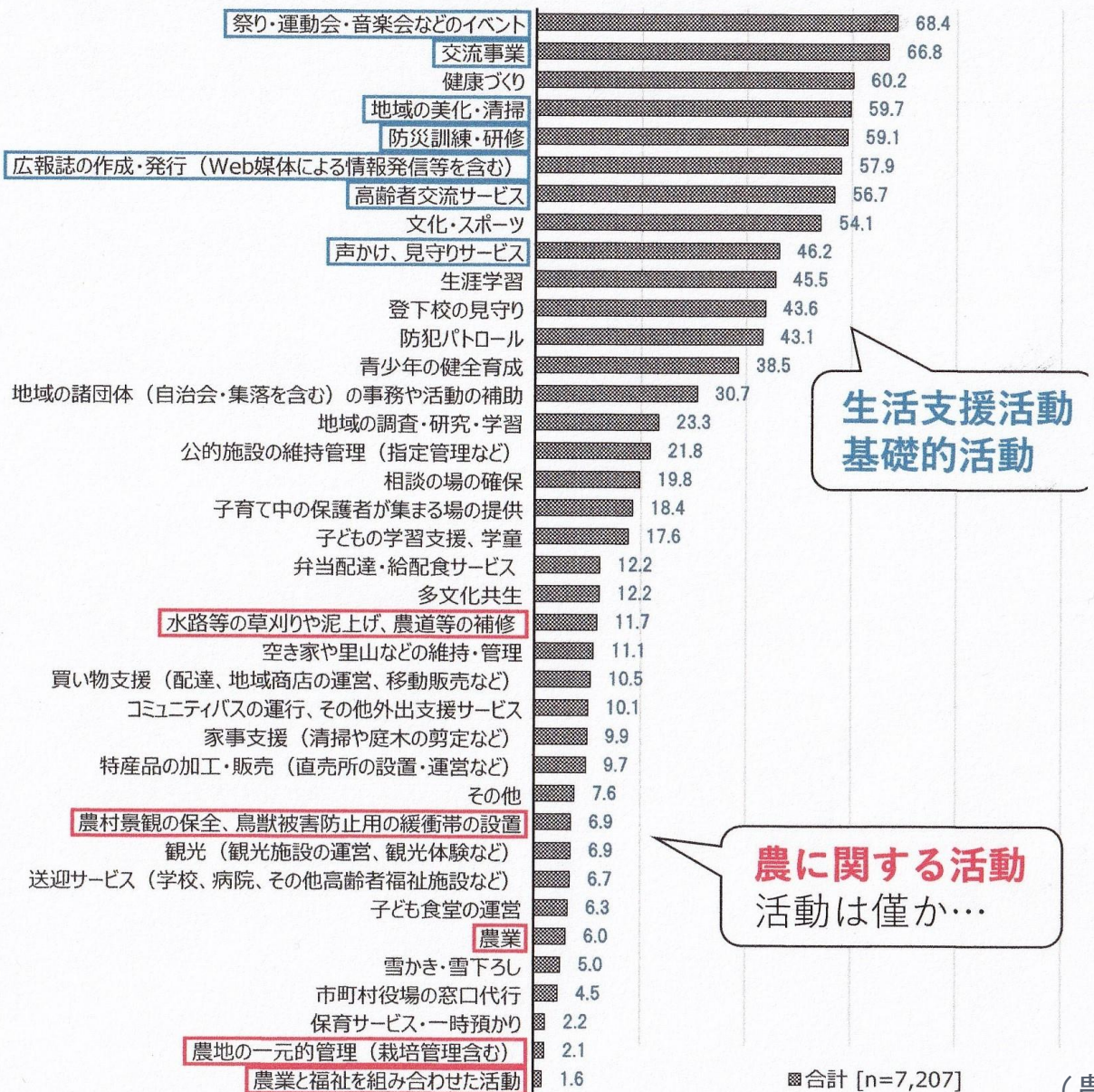
農に関する組織
組織の参加は僅か…

■ 構成団体として参加している組織 [n=7,207] □ 活動に協力している組織 [n=7,207]

（農水省HP：『農村RMO形成の必要性』『地域運営組織（RMO）の現状と課題』より）

地域運営組織の主な活動

0% 20% 40% 60% 80% 100%



生活支援活動
基礎的活動

農に関する活動
活動は僅か...

(農水省HP:『農村RMO形成の必要性』『地域運営組織(RMO)の現状と課題』より)

出典：総務省「地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書」令和4年度（地域運営組織：7,207団体が複数回答）

共感を活かした農山村再生に向けて

「足し算の林°-ト」

から…

まず、集落活動・日常の暮らしへの寄り添い<守り>

見えなくなっている資源・ひとへの「気づき」＋「誇り・自信」の取り戻し



「掛け算の林°-ト」へ
持続可能な地域の仕組みづくりへ<攻め>

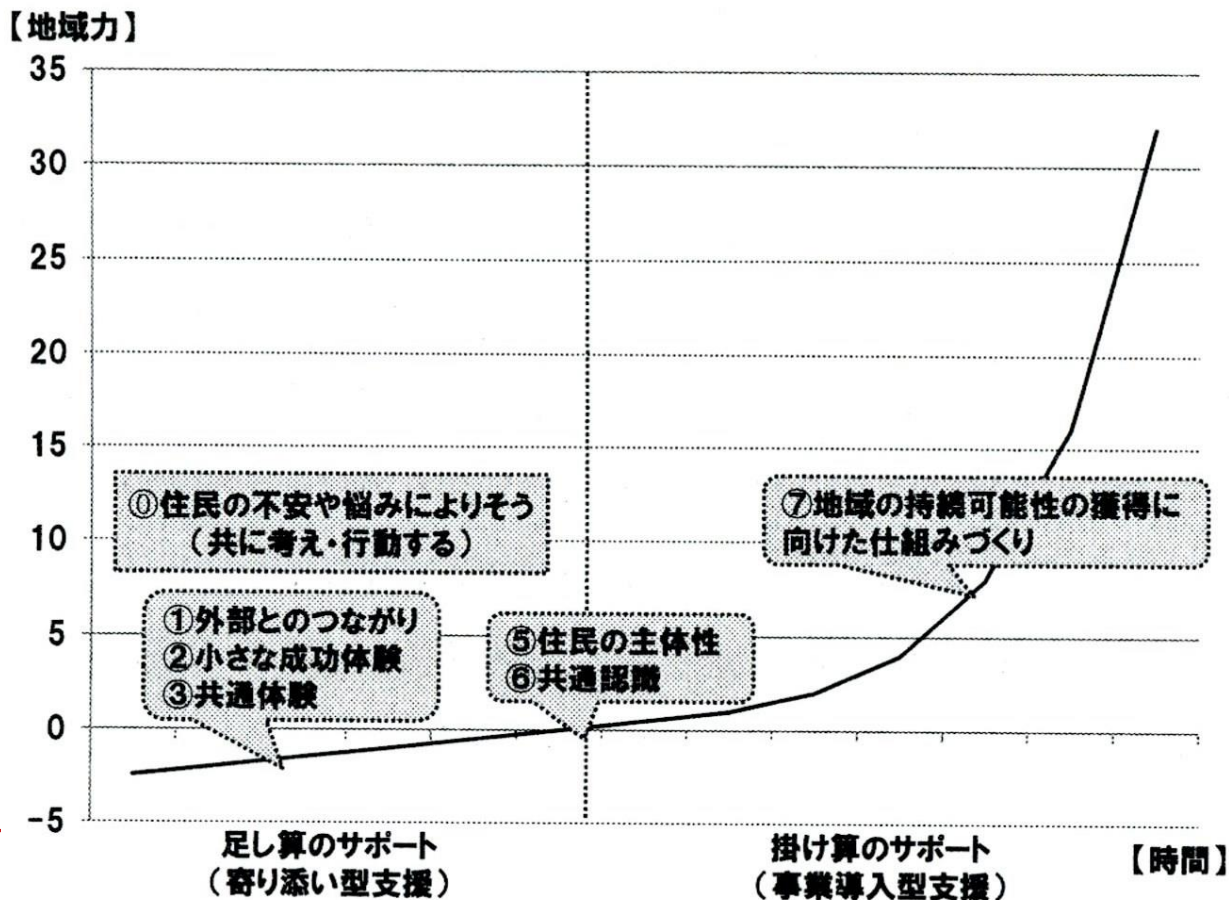
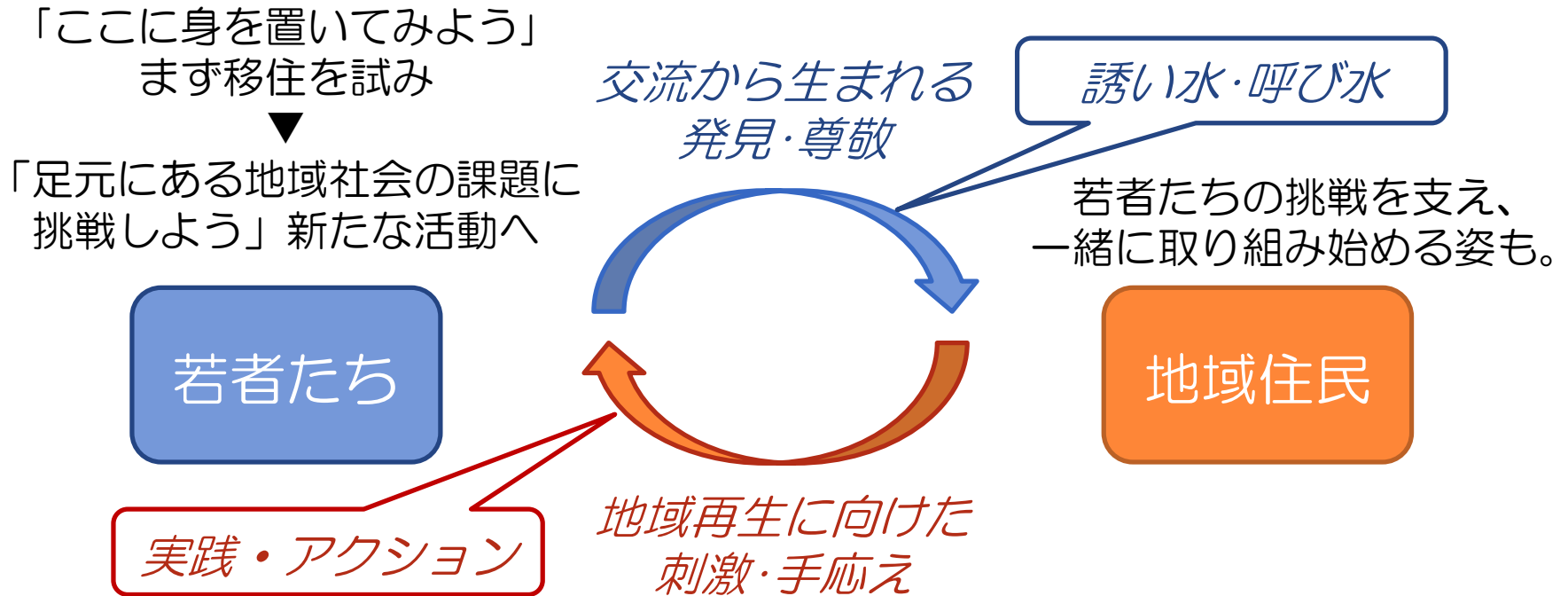


図2 地域力創造曲線

【作成：中越防災安全推進機構・稲垣文彦氏】

先発する地域に何を学ぶか？



→農山村に赴いた若者たちと地域住民との間に生まれた一体感

「共感の相互交換」＝地域の再生に踏み出す力

▼農山村に向けて吹いている若者の“田園回帰”の風

地域をよりよくしたい若者たち ←どう受け止めていくのか？

この10年で大きく変わってきた風向き

▼農山村回帰の“追い風”

20~40代を中心に、上世代から刺激。継承も意識。農への多様なアプローチ。→コミュニティ，なりわい，営農の担い手の可能性

「共感の相互交換」＝地域の再生に踏み出す力

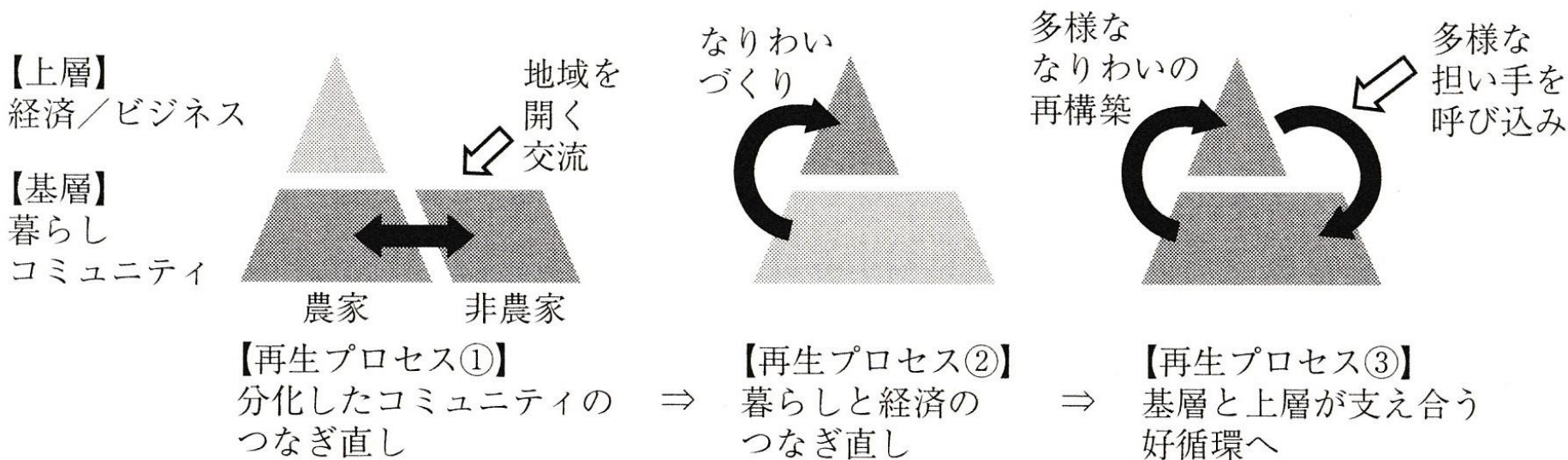


図8-2 農村社会の再生プロセス

※出典：図司直也「新しい再生プロセスをつくる」小田切徳美編『新しい地域をつくる』岩波書店，2022年，p.159

＝「農村発イノベーション」をプロセス全体として捉える視点

共感を活かした農村再生に向けて

○地域づくりの“考え方”…（宮口侗迪氏）

「時代にふさわしい新しい価値を地域から内発的につくり出し、地域に上乗せしていく作業」

世代を超えて継承されてきた知恵・技術＝「地域遺伝子」

（後藤春彦氏）

それを体現した「地域資源」

それを磨き上げ、新たな価値を創造し「地域産品」に

○農村再生の本質は…

＝地域を開き直す・つなぎ直すプロセスにあり

＜家と家／農家と非農家／世代間／他出者／移住者…＞

「How」の過剰：手段（ミツヨソ）から入り過ぎず、

「Why」「Who」への原点回帰：

誰のために、何のために？＜農村に暮らす意味はどこに？＞